

経営比較分析表（令和4年度決算）

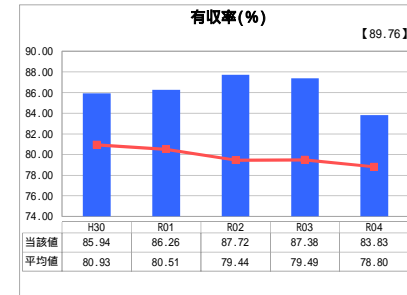
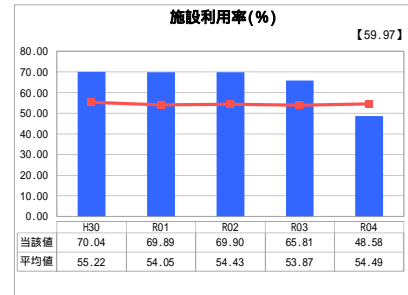
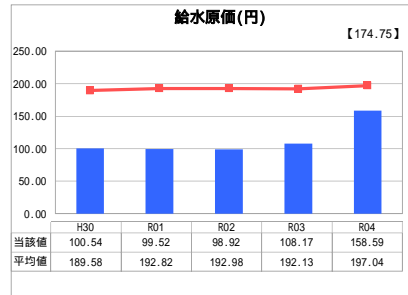
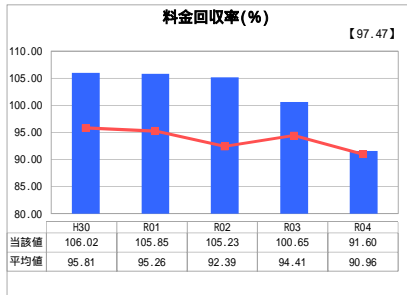
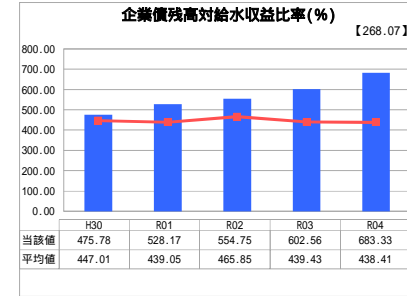
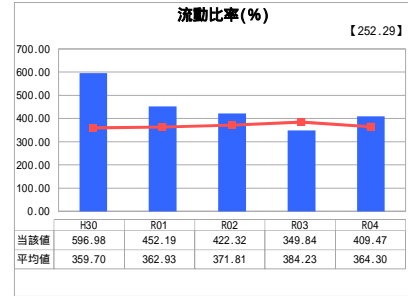
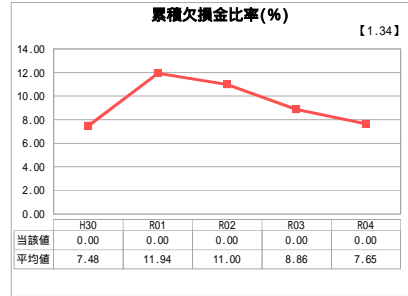
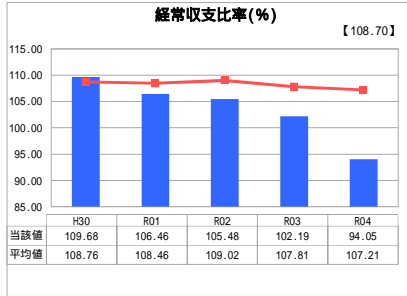
兵庫県 市川町

業務名	業種名	事業名	類似団体系分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	61.97	99.78	2,620	

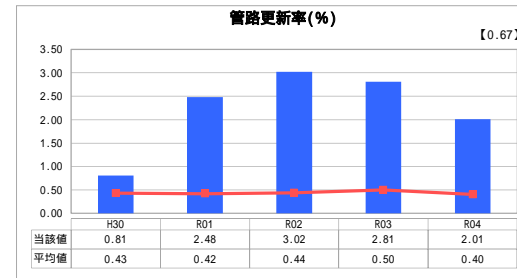
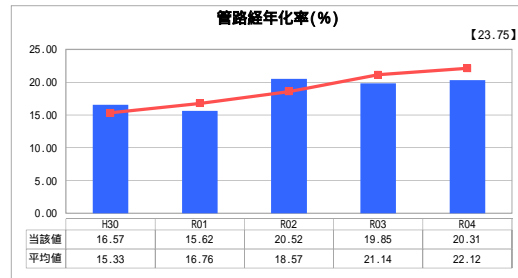
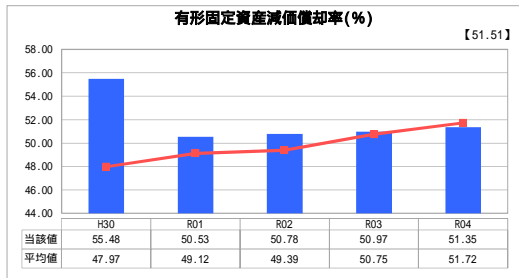
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,119	82.67	134.50
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
10,998	143.05	76.88

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
● 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率 料金回収率...給水収益が著しく減少したため、令和3年度までは100%以上を保持していたが、100%を下回る結果となった。令和5年7月より料金改定を実施することとしているが、施設維持管理費等の削減などさらに見直しをしていく必要がある。累積欠損比率...令和4年度までは発生していない。流動比率...100%を超えており短期的な債務に対する支払能力は維持できている。企業債残高対給水収益比率...企業債残高に対して給水収益の占める割合が低いことから、料金水準が適正であるか検討しなければならない。また、企業債への依存が高い状況のため資金管理に注意しながら、経営を行っていく必要がある。給水原価...平均値を下回っているが、経常収支比率と同様、施設維持管理等の経費削減に努め、効率的な運営を行ううなど更なる経営改善が必要である。施設利用率...給水人口の減少や節水意識の向上により配水量が減少してきている。今後は施設規模の適正化を考えて行く必要がある。有収率...用水は有収率が100%であるが、町内の上水は老朽管が多く、有収率が74.8%と低いため漏水調査や老朽管の更新工事を行い有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率...老朽化した資産が増加している事から計画的に更新を図っていく必要がある。管路経年化率 管路更新率...管路更新を行っているが、管路経年化率が高いことから、より計画的な更新に努める。

全体総括

人口減少や節水意識の高まりにより給水収益が減少している中、老朽管の更新等の事業を進めながら、安心、安全に水道水を供給していく必要がある。水道料金に関しては、令和5年7月より料金改定を行うこととしており、経営戦略に基づき事業を進め、安定した経営を維持する必要がある。また近隣市町との広域化や共同化にも積極的に取り組んでいく。